

駆除対策	目標設計	進捗状況	今後の方針								
(1)生息実態の正確な把握											
<p>①漁協組合員や遊漁者からの生息情報等を県に集約 (実施主体:漁協)</p>	<ul style="list-style-type: none"> □ 漁業に伴う混獲、春の繁殖候補地のパトロールや越冬地での刺し網漁などでコクチバスが発見された場合には、情報共有を図り、県へ集約 □ 買取のため持ち込まれた際に遊漁者から得られた捕獲情報等を各漁協から県へ集約 	<ul style="list-style-type: none"> □ 2年間にわたり、コクチバスの生息情報を収集した結果、県漁連・漁協、河川・ダム管理者、市町村、一般県民(遊漁者)などから、計65件の情報があり、生体確認、捕獲写真、現場調査、環境DNA分析から、うち41件でコクチバスの生息を県・水産研究所が確認 <p>【実績値(コクチバスの生息確認件数)】</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%;">令和6年度</td> <td style="width: 50%;">令和7年度</td> </tr> <tr> <td>長良川流域:12件</td> <td>長良川流域: 8件</td> </tr> <tr> <td>揖斐川流域: 7件</td> <td>揖斐川流域: 3件</td> </tr> <tr> <td>木曽川流域:10件</td> <td>木曽川流域: 1件</td> </tr> </table>	令和6年度	令和7年度	長良川流域:12件	長良川流域: 8件	揖斐川流域: 7件	揖斐川流域: 3件	木曽川流域:10件	木曽川流域: 1件	<ul style="list-style-type: none"> □ 県は、コクチバスに関する情報を継続的に収集し、駆除計画の情報源として今後も活用
令和6年度	令和7年度										
長良川流域:12件	長良川流域: 8件										
揖斐川流域: 7件	揖斐川流域: 3件										
木曽川流域:10件	木曽川流域: 1件										
<p>②環境DNA分析によるモニタリング(監視) (実施主体:県)</p>	<ul style="list-style-type: none"> □ 揖斐川、木曽川流域全体のため池・ダム湖を網羅的に調査する。河川では、木曽川、長良川、揖斐川における20箇所程度の定点において四季毎にモニタリングを実施 <p>【目標値(令和6年度)】</p> <p>河川 240地点 (3流域×20地点×4四半期)</p> <p>ため池 148地点 (貯水量の多い上位10%のため池)</p> <p>ダム湖 36地点 (到達不能なダムを除く全てのダム)</p> <p>その他 76地点</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 河川での採水定点を増やし、コクチバスの生息分布をより詳細に把握。長良川については春季(駆除前)に生息分布の把握、秋～冬季(駆除後)に複数回、駆除成果を確認 <p>【目標値(令和7年度)】</p> <p>長良川 124地点 揖斐川 67地点 木曽川 58地点 その他 151地点</p>	<ul style="list-style-type: none"> □ 揖斐川、木曽川流域全体のため池・ダム湖、河川では、木曽川、長良川、揖斐川における20箇所程度の定点において、環境DNA調査を実施し、コクチバスの生息場所を特定 <p>【実績値(令和6年度)】</p> <p>河川 240地点 (長良川流域5地点、揖斐川流域14地点、木曽川流域7地点で陽性)</p> <p>ため池 148地点 (陽性地点無し)</p> <p>ダム湖 36地点 (木曽川流域の4地点で陽性)</p> <p>その他 79地点</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 河川におけるコクチバスの生息分布をより詳細に把握。長良川については春季(駆除前)に生息分布の把握、秋～冬季(駆除後)に複数回、駆除成果を確認 <p>【実績値(令和7年度)】</p> <p>長良川 62地点(駆除前:10地点で陽性) 54地点(駆除後:1地点で陽性のまま:12月末時点)</p> <p>揖斐川 67地点(4地点で陽性)</p> <p>木曽川 58地点(17地点で陽性)</p> <p>その他 31地点</p>	<ul style="list-style-type: none"> □ 長良川流域では、駆除完了後の最終確認として、河川においてのみ環境DNA調査を再度実施し、コクチバスが生息していない事を確認 □ 揖斐川・木曽川流域では、河川においてのみ環境DNA調査を実施し、駆除効果の確認や分布域の縮小・拡大を再確認 								
<p>③ドローンや魚探を活用した生息調査 (実施主体:県漁連(県委託事業))</p>	<ul style="list-style-type: none"> □ 県漁連の駆除作業専門チームは魚群探知機と水中ドローンによりコクチバスの魚影を探查 □ 越冬地での刺し網の際に有効な場所情報を提供するため魚探と水中ドローンを活用 	<ul style="list-style-type: none"> □ 水中ドローンを活用した成果は以下のとおり <p>【実績値(令和7年度)】</p> <p>長良川流域 5日撮影 2日コクチバス確認 揖斐川流域 3日撮影 2日コクチバス確認 木曽川流域 2日撮影 1日コクチバス確認</p> <p>※ 魚群探知機(大河川用電気ショックカーボートに搭載)に関しては、大河川用電気ショックカーボート操船時に常時使用</p>	<ul style="list-style-type: none"> □ 水中ドローンや魚群探知機を用いたコクチバス探索を適宜、実施 								

コクチバス駆除総合対策・進捗状況管理シート

参考資料

駆除対策	目標設計	進捗状況	今後の方針
(1)生息実態の正確な把握			
④生息情報と駆除作業結果をデータベース化して生態研究 (実施主体:県)	□ 環境DNA分析によるモニタリング結果やコクチバスの生息情報、駆除作業の成果を、地理情報システム(GIS)を活用しデータベース化して分析することで駆除戦略を立案	□ 令和6年度に電気ショックカーボートの操船記録(電気ショックをかけた地点情報)や捕獲写真をGISを活用し解析	□ コクチバスの生息場所の解析に有効であった。生息場所の特定が進んだことから、今後、縮小する方向で検討
⑤県内の全てのため池・ダム湖での目視調査 (実施主体:県、市町村、ダム管理者)	□ 密放流された恐れのある県内の全てのため池・ダム湖において、市町村やダム管理者が蔓延状況を把握するための実態調査を実施し県へ集約	□ 環境DNA調査の採水時やため池・ダム湖管理者による巡回活動の際、目視調査を令和6年度に実施 □ 環境DNA調査(令和5～6年度実施)で陰性となったため池・ダム湖では、令和7年度の目視調査でもコクチバス生息の情報提供はないことを確認 【実績値(令和6年度)】 ため池 315地点 ダム湖32地点で目視調査 【実績値(令和7年度)】 (市町村、県) ため池の巡視を実施し、コクチバスの生息がない事を確認(ダム管理者) 管理するダム湖で、魚影や遊漁者の確認等を行い、県へ情報提供	□ ため池やダムの管理者は、巡回活動などの際、目視調査の実施を継続実施 □ コクチバスの生息が疑われる場合には、県が環境DNA分析による調査を実施
(2)流域が一丸となって全ての生息場所で駆除実施			
①漁協組合員による鮎の網漁などでの混獲駆除 (実施主体:漁協)	□ 鮎の網漁やたくり漁など漁協による混獲駆除を促進 □ 生息分布情報等の周知による混獲駆除の効率化	□ 漁協組合員が実施する刺し網で混獲される傾向 【実績値】 令和5年度 令和6年度 令和7年度 3漁協、3地点 7漁協、9地点 3漁協、8地点	□ 得られた情報は県漁連に集約するとともに、各漁協及び県に情報共有
②遊漁者等からの買取(補助金) (実施主体:漁協、県漁連)	□ 県漁連は傘下の全漁協を対象に全国最高値の2,000円/kgで遊漁者等によるコクチバス買取を促進	□ 高密度でコクチバスが生息するダム湖からの買取が特に多いダム湖では電気ショックカーボートによる駆除尾数の6倍以上の買取実績 □ 長良川・揖斐川流域では木曾川流域からの買取と比べると相対的に少なく、電気ショックカーボートによる駆除尾数の1/7から1/10に留まる → 以上から、高密度でコクチバスが生息するダム湖などでは駆除方法として買取が有効である一方、低～中密度の河川やため池では電気ショックカーボートによる複数の駆除方法を組み合わせた駆除が有効であるという成果を得た 【年度別の実績値】 令和5年度 令和7年度 令和6年度 2,427尾 1,974尾 5,140尾 1,043kg 809kg 1,622kg 合計 9,541尾 3,474kg 【流域別の実績値(3年間合計)】 長良川流域 揖斐川流域 木曾川流域 22尾 83尾 9,436尾 11kg 36kg 3,427kg	□ 全流域を対象に買取を継続実施。県と県漁連は補助金で引き続き支援 □ 県漁連と漁協は連携し、特に買取施設(コクチバスの冷凍保存施設)を持たない漁協管内からの買取を県漁連が引き続きサポート

駆除対策	目標設計	進捗状況	今後の方針
(2)流域が一丸となって全ての生息場所で駆除実施			
<p>③春の繁殖候補地のパトロールと親魚の駆除（補助金）</p> <p>④繁殖地での稚仔魚の駆除（補助金） （実施主体：漁協）</p>	<ul style="list-style-type: none"> 漁協が繁殖場所をパトロールし、卵を守る親魚の駆除や産卵床の破壊を実施することで繁殖抑制 産卵床を見逃し稚仔魚が確認された場合、漁協はできる限り駆除。県漁連の駆除作業専門チームは電気ショッカー操船にともなう稚仔魚の駆除を実施 	<ul style="list-style-type: none"> 長良川流域では、上流域から中流域までの3漁協が、流域全体にわたり、コクチバスが繁殖しそうな場所を選定し、産卵床パトロールを実施 揖斐川・木曾川流域では、船でのアクセスを必要とする場所が多いため、基本的に電気ショッカーボートによる駆除の際、産卵床の巡視も兼ねる方法を採用。そのため、補完的なパトロールを実施 <p>【実績値(令和6年度)】 長良川流域(3漁協) 駆除日数:114日 親魚駆除: 0尾</p> <p>【実績値(令和7年度)】 長良川流域(3漁協) 木曾川流域(1漁協) 揖斐川流域(1漁協) 駆除日数:31日 駆除日数:7日 駆除日数:12日 親魚駆除: 7尾 親魚駆除:6尾 親魚駆除: 3尾</p> <p>※長良川流域については、県・県漁連・漁協(補助金以外)によるパトロールも実施（駆除回数:102回、親魚駆除:9尾）</p>	<ul style="list-style-type: none"> 長良川流域では駆除後の最終確認として、長良川中流域でのみ、引き続きパトロールを実施 揖斐川・木曾川流域では、アユを中心とした漁業被害を軽減させるため、各漁協にとって重要となる漁場付近で実施
<p>⑤越冬地での刺し網による集中駆除 （実施主体：漁協）</p>	<ul style="list-style-type: none"> 漁協は冬季に流れの緩やかな深場に集まる習性を利用し刺し網で駆除 魚群探知機と水中ドローンによりコクチバスの魚影を探査し、網を張る場所を決めるための情報を提供 	<ul style="list-style-type: none"> 漁協組合員が所有する和船を用いた刺し網による駆除(借上げ船)を令和6年9月より導入し、電気ショッカー船が不得手とする水深・流速のある場所での駆除を促進 <p>【実績値(令和6年度)】 長良川流域(1漁協) 木曾川流域(1漁協) 揖斐川流域(1漁協) 駆除日数:7日 駆除日数:0日 駆除日数: 15日 駆除尾数:0尾 駆除尾数:0尾 駆除尾数:124尾</p> <p>【実績値(令和7年度)】 長良川流域(1漁協) 木曾川流域(1漁協) 揖斐川流域(2漁協) 駆除日数:23日 駆除日数:15日 駆除日数:51日 駆除尾数: 1尾 駆除尾数:26尾 駆除尾数:438尾</p>	<ul style="list-style-type: none"> 漁協(和船所有者)が慣れ親しんだ方法で駆除を展開するため、借上げ船による駆除活動をより積極的に採用 県は、水中ドローンも活用し、越冬期におけるコクチバスの生息場所を特定することで、効率的な駆除を支援
<p>⑥釣り大会の開催（補助金） （実施主体：漁協）</p>	<ul style="list-style-type: none"> 漁協が広く遊漁者に参加を呼び掛けた釣り大会を開催して駆除 県は開催する漁協を支援 	<ul style="list-style-type: none"> 実績なし <p>【参考情報】 阿木川ダムで、地元の高校性も参加する外来魚駆除のための釣り大会実施(木曾川上流ダム総合管理所、恵那漁協)(令和7年11月)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 普及啓発効果が期待されるため、生息数の多い河川やダム湖において試行的開催を検討
<p>⑦捕獲したコクチバスのリリース禁止 （実施主体：県）</p>	<ul style="list-style-type: none"> 岐阜県内水面漁場管理委員会指示により令和5年4月1日から捕獲したコクチバスのリリースを禁止して駆除を義務化 	<ul style="list-style-type: none"> 県里川・水産振興課のHP内でコクチバスを対象としたリリース禁止の漁場管理委員会指示を掲載 <p>【実績値】 「(3)多くの目で監視することによる密放流の防止」の「②密放流・リリース禁止の広報・啓発及び③釣具店等への密放流・リリース禁止の啓発の要請」を参照</p>	<ul style="list-style-type: none"> 引き続きリリース禁止についての普及啓発を推進

コクチバス駆除総合対策・進捗状況管理シート

参考資料

駆除対策	目標設計	進捗状況	今後の方針																				
(2)流域が一丸となって全ての生息場所で駆除実施																							
<p>⑧溪流等では背負い式電気シヨッカーによる駆除 ⑨小河川用電気シヨッカーポートによる駆除 ⑩中河川用電気シヨッカーポートによる駆除 ⑪大河川用電気シヨッカーポートによる駆除 (実施主体:県、県漁連)</p>	<p>□ 河川の規模・流速・水深等に応じて仕様・サイズの異なる電気シヨッカーを運用し、コクチバスの駆除を実施</p> <p>大河川用電気シヨッカーポート(清流ガード2、4号) 中河川用電気シヨッカーポート(清流ガード1号) 小河川用電気シヨッカーポート(清流ガード3号) 背負い式電気シヨッカー(背負い式)</p>	<p>□ 電気シヨッカーによる駆除結果は以下のとおり</p> <p>【駆除方法毎の実績値】</p> <table border="0"> <tr> <td>令和6年度</td> <td>令和7年度(1月末まで)</td> </tr> <tr> <td>清流ガード1号:133日、328尾</td> <td>清流ガード1号:99日、135尾</td> </tr> <tr> <td>清流ガード2、4号:137日、982尾</td> <td>清流ガード2、4号:98日、504尾</td> </tr> <tr> <td>清流ガード3号:82日、170尾</td> <td>清流ガード3号:83日、121尾</td> </tr> <tr> <td>借上げ船:22日、124尾</td> <td>借上げ船:89日、465尾</td> </tr> <tr> <td>背負い式:65日、89尾</td> <td>背負い式:37日、15尾</td> </tr> </table> <p>【流域毎の実績値】</p> <table border="0"> <tr> <td>令和6年度</td> <td>令和7年度(1月末まで)</td> </tr> <tr> <td>長良川流域:195日、67尾</td> <td>長良川流域:205日、59尾</td> </tr> <tr> <td>揖斐川流域:68日、431尾</td> <td>揖斐川流域:109日、644尾</td> </tr> <tr> <td>木曽川流域:176日、1,195尾</td> <td>木曽川流域:92日、537尾</td> </tr> </table>	令和6年度	令和7年度(1月末まで)	清流ガード1号:133日、328尾	清流ガード1号:99日、135尾	清流ガード2、4号:137日、982尾	清流ガード2、4号:98日、504尾	清流ガード3号:82日、170尾	清流ガード3号:83日、121尾	借上げ船:22日、124尾	借上げ船:89日、465尾	背負い式:65日、89尾	背負い式:37日、15尾	令和6年度	令和7年度(1月末まで)	長良川流域:195日、67尾	長良川流域:205日、59尾	揖斐川流域:68日、431尾	揖斐川流域:109日、644尾	木曽川流域:176日、1,195尾	木曽川流域:92日、537尾	<p>□ 揖斐川、木曽川流域については、電気シヨッカーポートの計画的な運用を継続</p>
令和6年度	令和7年度(1月末まで)																						
清流ガード1号:133日、328尾	清流ガード1号:99日、135尾																						
清流ガード2、4号:137日、982尾	清流ガード2、4号:98日、504尾																						
清流ガード3号:82日、170尾	清流ガード3号:83日、121尾																						
借上げ船:22日、124尾	借上げ船:89日、465尾																						
背負い式:65日、89尾	背負い式:37日、15尾																						
令和6年度	令和7年度(1月末まで)																						
長良川流域:195日、67尾	長良川流域:205日、59尾																						
揖斐川流域:68日、431尾	揖斐川流域:109日、644尾																						
木曽川流域:176日、1,195尾	木曽川流域:92日、537尾																						
<p>⑫電気シヨッカー(ポート含む)の貸出 (実施主体:県漁連、漁協、ため池・ダム管理者、その他の管理者)</p>	<p>□ 県漁連の駆除作業専門チームは、漁協、ため池・ダム管理者、その他コクチバス生息地の管理者自らが駆除する場合は、管理する電気シヨッカー及びポートを無償で貸出</p>	<p>□ 電気シヨッカー船及び背負い式電気シヨッカーの貸出規定を定めた約款を整備</p>	<p>□ 引き続き運用</p>																				
<p>⑬生息確認されたため池での水抜きによる駆除 (実施主体:市町村などため池管理者)</p>	<p>□ ため池管理者は生息が確認され次第、ため池からの流出防止措置を講じるとともに、農業用ため池の場合には水抜きにより完全駆除</p> <p>□ 県は駆除経費の一部を支援</p>	<p>□ 令和5～6年度に生息・目撃情報や環境DNA分析による陽性反応を受け、複数のため池で水抜きによる駆除を実施</p> <p>□ 令和6年度に揖斐川、木曽川流域の主要なため池について、環境DNA分析による網羅的な調査を実施したが、新たな陽性地点は確認されず</p> <p>【年度別の実績値】</p> <table border="0"> <tr> <td>令和5～6年度</td> <td>令和7年度</td> </tr> <tr> <td>西坂ため池(郡上市):673尾</td> <td>新たなため池での生息確認なし</td> </tr> <tr> <td>寒洞池(各務原市):72尾</td> <td></td> </tr> <tr> <td>天池(美濃市):0尾</td> <td></td> </tr> </table>	令和5～6年度	令和7年度	西坂ため池(郡上市):673尾	新たなため池での生息確認なし	寒洞池(各務原市):72尾		天池(美濃市):0尾		<p>□ 生息が確認され次第、管理者はすみやかに流出防止措置を実施。水抜きによる駆除を県・駆除作業専門チームと協議し実行</p> <p>□ 県は、ため池管理者による駆除作業を支援</p>												
令和5～6年度	令和7年度																						
西坂ため池(郡上市):673尾	新たなため池での生息確認なし																						
寒洞池(各務原市):72尾																							
天池(美濃市):0尾																							
<p>⑭県内の全ため池で定期的な水抜きの検討 (実施主体:市町村などため池管理者)</p>	<p>□ 定期的な水抜き(かい堀り)を管理者が実施するよう検討</p>	<p>□ 市町村→県農林事務所→県農地整備課ルートで水抜き実施に関する情報共有を県に図るよう調整</p> <p>【実績値(令和6～7年度)】 ため池で定期的な水抜きを実施。県は、環境DNA調査の実施結果やコクチバスが発見されないかを適宜、情報共有</p>	<p>□ ため池の水抜き実施の際、市町村などは事前に県に対し環境DNA分析の実績を確認するよう要請</p> <p>□ 県は、環境DNA調査の実績を調査し、未実施の場合やコクチバスの生息が疑われる場合には、環境DNA分析を実施</p>																				

駆除対策	目標設計	進捗状況	今後の方針
------	------	------	-------

(2)流域が一丸となって全ての生息場所で駆除実施

⑮生息確認されたダム湖での駆除
(実施主体:ダム管理者、漁協、県漁連)

- ダム湖でコクチバスの生息が確認された場合、管理者は漁協、県漁連の駆除作業専門チームによる駆除に協力
- ダム管理者が自ら駆除をする場合、県漁連の駆除作業専門チームは電気ショッカー及びボートをダム管理者に無償で貸与

□ コクチバスの生息が確認されたダム湖のうち、生息尾数の多い岩屋ダム、馬瀬川第二ダム、川辺ダムで駆除を実施

【実績値】

令和6年度	令和7年度
岩屋ダム:65日、967尾	岩屋ダム:58日、483尾
馬瀬川第二ダム:48日、90尾	馬瀬川第二ダム:15日、21尾
川辺ダム:9日、0尾	川辺ダム:0日、0尾

- ダム湖では費用対効果の高い買取による駆除を推進
- 駆除が困難な下原ダム、上麻生ダムに関しては、コクチバスの人為的な持出しがないよう、引き続き、ダム管理者がパトロール実施

(3)多くの目で監視することによる密放流の防止

①生息地持出や密放流の監視体制の強化(コクチバス密放流等対応マニュアル作成)

(実施主体:漁協、河川管理者、ため池管理者、ダム管理者、県、市町村等)

- 「密放流等対応マニュアル」を作成して広く配布
- 漁協と河川やため池、ダムの管理者は密放流とリリース禁止を周知・啓発する看板設置の許諾
- ステッカーを貼ったパトロール車での巡回、来訪者へのチラシの配布に協力

□ 県が、ポスター、チラシ、マグネットステッカー等を作成し、現場での啓発普及を実施

【実績値(令和6~7年度)】
(県)

「密放流等対応マニュアル」を作成し、関係機関に配布
(県漁連・漁協)
県漁連・漁協の公用車(電気ショッカーボート駆除の際、使用する車)や自家用車にマグネットステッカーを貼付し啓発
(河川・ダム管理者)
看板設置やパトロール車の巡回などにより、コクチバスの密放流禁止・リリース禁止に関する啓発普及や目視調査(釣り人の確認)を実施
(市町村、県)
のぼり、チラシ、マグネットステッカー等により、啓発普及を実施

- 漁協、河川管理者、ため池管理者、ダム管理者、県、市町村は、引き続き、管理する場所でコクチバスの密放流・リリースが行われないよう継続して監視

②密放流・リリース禁止の広報・啓発
(実施主体:県)
③釣具店等への密放流・リリース禁止の啓発の要請
(実施主体:県、県漁連)

- 市町村、漁協、釣具店、河川管理者、ダム管理者など関係機関に対しポスター、チラシの配布と多くの河川利用者の目に触れる場所に看板の増設
- 河川等の既存看板と漁協や河川、ため池、ダムの管理パトロール車などに貼るステッカーの作成、SNSをはじめ多様なメディアを用いた発信
- 小中高等学校等での環境学習等の一環としてコクチバスがもたらす悪影響を学ぶための教材等を教育委員会との連携のもと作成
- 県と県漁連から県内及び隣県の釣具店に対しポスター・チラシの掲載をはじめ店内放送などでの密放流・リリース禁止と買取制度の啓発を依頼

□ コクチバスの密放流・リリース禁止の普及啓発を以下のとおり実施

【実績値(令和6年度)】

普及啓発用具
ポスター、チラシ、ステッカーの作成、配布
看板設置
長良川(郡上市)に4基、農業用ため池に8ヶ所看板設置(郡上市設置)
情報発信
岐阜市南部の全世帯対象の地域情報誌「GIFUTO通信(2024年5月号)」にて特集記事掲載
環境学習
水辺共生体験館(各務原市)にて環境学習「生物多様性シンポジウム」でコクチバス対策について講義
クラウドファンディング
1回目:寄付金額: 1,522,000円
2回目:寄付金額: 1,040,000円
企業版ふるさと納税
企業2社から、計60万円の寄附を受領

- 関係者が河川パトロール時にステッカーを張るなどして、引き続き、啓発
- チラシ、ポスターを活用し、引き続き、普及啓発

駆除対策	目標設計	進捗状況	今後の方針
<h3>(3)多くの目で監視することによる密放流の防止</h3>			
<p>②密放流・リリース禁止の広報・啓発 (実施主体:県)</p> <p>③釣具店等への密放流・リリース禁止の啓発の要請 (実施主体:県、県漁連)</p>	<ul style="list-style-type: none"> □ 市町村、漁協、釣具店、河川管理者、ダム管理者など関係機関に対しポスター、チラシの配布と多くの河川利用者の目に触れる場所に看板の増設 □ 河川等の既存看板と漁協や河川、ため池、ダムの管理パトロール車などに貼るステッカーの作成、SNSをはじめ多様なメディアを用いた発信 □ 小中高等学校等での環境学習等の一環としてコクチバスがもたらす悪影響を学ぶための教材等を教育委員会との連携のもと作成 □ 県と県漁連から県内及び隣県の釣具店に対しポスター・チラシの掲載をはじめ店内放送などでの密放流・リリース禁止と買取制度の啓発を依頼 	<p>【実績値(令和7年度)】</p> <p>普及啓発用具 ポスター、チラシ、マグネットステッカー、卓上のぼりの作成、配布 看板設置 長良川(美濃市、関市、岐阜市)に6基設置(1月完了予定)</p> <p>情報発信 「生態系脅かすコクチバス」 中日新聞掲載(令和7年7月) 「長良川のコクチバス駆除:地道な活動、記録に残す」 岐阜新聞掲載(令和7年8月)</p> <p>企業版ふるさと納税 企業1社から、10万円の寄附を受領</p> <p>普及啓発活動 支給したポスター、卓上のぼり、チラシを管理事務所内や庁舎内に設置することで、来訪者への啓発を実施 管理施設の巡回活動の際にマグネットステッカーを装着することで、周囲への啓発を実施</p>	<ul style="list-style-type: none"> □ 関係者が河川パトロール時にステッカーを張るなどして、引き続き、啓発 □ チラシ、ポスターを活用し、引き続き、普及啓発
<p>④密放流の供給源での監視カメラ設置の検討</p> <p>⑤県内の全ダムでの監視カメラ設置の検討(実施主体:ダム管理者)</p>	<ul style="list-style-type: none"> □ 管理者は、監視カメラが設置されていれば常時監視中である旨を看板等で注意喚起。未設置であれば設置を検討・許諾するなどコクチバスの持出しを抑止するための取組みに努める。 	<ul style="list-style-type: none"> □ 監視カメラが設置されているダム湖等に関しては、コクチバスが生息するダム湖について監視カメラ設置に関する注意喚起ポスターを配布 □ 監視カメラが設置されていないダム湖等に関しては、密放流やリリース禁止に関するポスターやチラシなどで注意喚起 	<ul style="list-style-type: none"> □ ダム・ため池管理者は、コクチバスの密放流やリリース禁止に関する注意喚起を引き続き、検討
<p>⑥県内の全ため池での釣り禁止の検討 (実施主体:市町村などため池管理者)</p>	<ul style="list-style-type: none"> □ ため池管理者は立入禁止による事実上の釣り禁止と密放流の防止を検討 □ 既に釣り禁止や立入禁止となっているため池については、管理者は、その徹底のため看板設置やフェンスの設置などに努める。 	<ul style="list-style-type: none"> □ 「(3)多くの目で監視することによる密放流の防止」の「②密放流・リリース禁止の広報・啓発及び③釣具店等への密放流・リリース禁止の啓発の要請」を参照 	<ul style="list-style-type: none"> □ 引き続きため池管理者は立入禁止による事実上の釣り禁止と密放流の防止を検討 □ 県はため池管理者に対し立入禁止の検討と外来生物の密放流の防止措置を要請

漁業協同組合員の力で外来魚ゼロへ！

コクチバス捕獲マニュアル



目次

- I. はじめに 2
- II. コクチバスの習性 3
 - 1. 生息
 - 2. 産卵
 - 3. 性格
- III. 習性に合わせた捕獲 8
 - 1. 親魚を狙った産卵場での刺し網
 - 2. 淵での刺し網
 - 3. 見えバスを狙った刺し網
 - 4. 見えバスを狙った釣り
- IV. その他役立つ情報 27
 - 1. 産卵床の見つけ方
 - 2. オオクチバスとの見分け方

I. はじめに

水産研究所では、電気ショッカーや船を使わずにコクチバスを捕獲する方法について、調査を進めています。

これまでの調査結果をもとに、現時点で最も効果的と考えられる捕獲方法をまとめました。是非、参考にしてください。

ショッカーボートの駆除効果は高い！
でも・・・
維持費も人手もかかるし、船舶免許も
必要...

もっと簡単に効率よく駆除したい！



Ⅱ. コクチバスの習性

**1. 行動：流れが緩やかな場所を好む。
体の大きさによって行動が変化。**

- 水通しの良い場所を好むが、瀬のような強い流れではなく、淵のような緩やかな流れの場所を選ぶ。

【全長25cm程度まで】

- 隙間のある大岩や頭大の石が集まったゴロタ場、テトラなどの構造物の近くにいることが多く、驚くと構造物の隙間に逃げ込む。

【全長25cmを超えると】

- 構造物への依存が減り、淵の中を回遊する。
- 驚くと泳いでその場から離れる

【季節による変化】

- 梅雨明け頃から岸近くでもよく見られる。
- 8月下旬から当歳魚も確認できる。
- 水温が下がる10月頃からは、目視での確認が困難。



回遊している大型魚



当歳魚

Ⅱ. コクチバスの習性

2. 産卵：5～6月に特定の場所で産卵し、オスが卵を守る。

【産卵（5～6月）】

- ・産卵期は水温が15℃を超えてから始まり、盛期は5～6月。
- ・水深約1mの、流れが緩やかな砂礫底を好む。

【産卵場所の特徴】

- ・川では淵尻付近の川岸や、流れがぶつかるテトラ・大岩の裏側。
- ・ダム湖では遠浅のワンド内でよく確認される。

【産卵行動】

- ・オスが砂や泥を除き、直径約50cmの浅いすり鉢状の産卵床を作る。
- ・産卵後、オスは外敵から卵を守る。
- ・産卵床の中心には3～5cm程度の小礫が集まっていることが多い。
- ・産卵床周辺には大石や流木などの障害物がある場合が多い。

Ⅱ. コクチバスの習性



淵尻の川岸にできた産卵床
(黄色破線内)



産卵行動中の雌雄
(黄色破線内)

Ⅱ. コクチバスの習性

3. 性格：警戒心が強く、学習能力が高い

- 刺し網で初回に多く捕れた場所でも、連続して仕掛けると、コクチバスが残っていても捕れないことがある。
- 刺し網を警戒して止まる個体や、川底と網の間隙をすり抜ける個体がいる。
- 30cm以上の大型個体は特に警戒心が強く、複数尾いる場所で1尾釣ると、残りはほとんど釣れなくなる。
- コクチバスとオオクチバスが同じ場所にいる場合、釣りではオオクチバスが先に掛かる傾向がある。
- 産卵床を守るオスも、人が岸に近づくと巣を放棄して沖へ逃げる。ただし、騒がなければ約5分で戻り、保護を再開する。

Ⅱ. コクチバスの習性



大型のコクチバスは警戒心が強い。

コクチバスが優占する淵で一番最初に釣れたオオクチバス



ダム湖で水深が浅くなったため放棄された産卵床
※産卵床への執着心はオオクチバスと比べると弱い

Ⅲ. 習性に合わせた捕獲

- コクチバスの習性を活用することで、効率的な捕獲が可能。
- 具体的には**5～6月の産卵期には産卵場で親魚を捕獲**し、コクチバスが活発に動き、人も川で活動しやすく**夏季には刺し網や釣りで捕獲**を行います。

(次ページの表を参照)

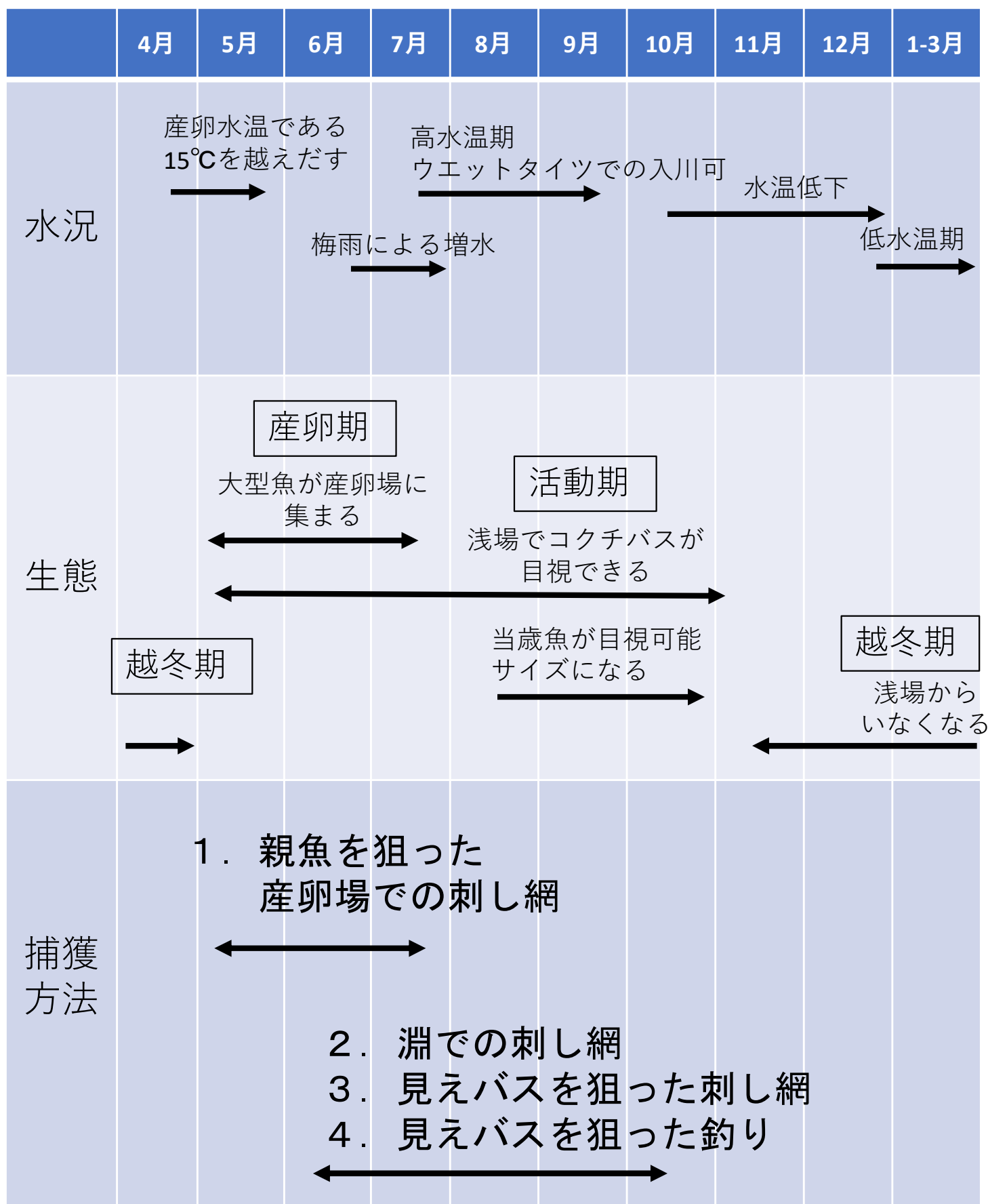


刺し網による捕獲

釣りによる捕獲



Ⅲ. 習性に合わせて捕獲



Ⅲ. 習性に合わせた捕獲

1. 親魚を狙った産卵場での刺し網

方法

- 淵尻の岸等、コクチバスが産卵床を作りそうな場所を踏査し、目視確認する。
- 産卵床、または30cm以上の大型のコクチバスを確認できれば、その周辺が産卵適地と判断する。
- 水深90-100cm程度の場所で、産卵適地とその沖側を仕切るように、刺し網を縦（流れの向き）に張る（図1, 2）。
- 刺し網の上流端は、沈子と浮子を2m程のヒモで結んだ流れ止めを沈め、浮子部に刺し網上流端を結び、刺し網が流れで倒れないようにする（図2参照）。
- 張る時間は昼間のみが良い。

Ⅲ. 習性に合わせた捕獲

1. 親魚を狙った産卵場での刺し網



図1 刺し網を張るイメージ（外側からのイメージ）



図2 刺し網を張るイメージ（内側からのイメージ）

2. 淵での刺し網

方法

- 障害物が多い側の淵尻の駆け上がりに沿って刺し網を縦（水流の向き）に張る（両側とも障害物がある場合は両岸に張ってもよい）。
- 張る時間は網に付着するゴミや藻類の量を考慮して決める。
- 水深が3mまでの浅い淵では、チェストハイウェーダーで入れる90cm程度の駆け上がりから刺し網を張る。
- 水深4m以上の淵では、ウェットタイツを着用し、水深2m程度の位置から網を張った方がよい。
- 浅い淵ならば、最深部に沿って網を入れる方法も可能。
- 深い淵では、仕掛け時に危険が伴い、川底の障害物に網が引っ掛かると回収不能になる恐れがあるため、船を使った方が安全。

Ⅲ. 習性に合わせた捕獲

2. 淵での刺し網

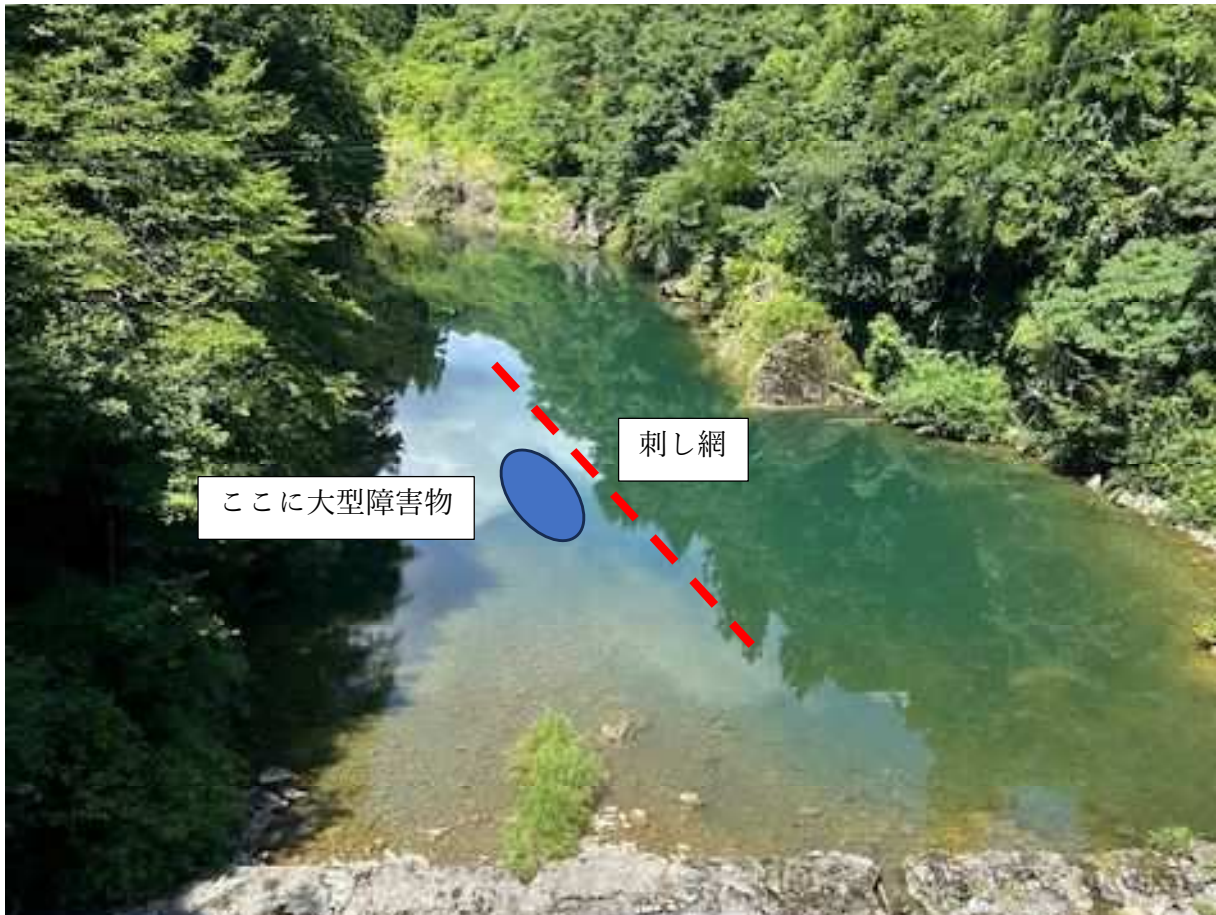


図1 淵での刺し網を張るイメージ（上からのイメージ）

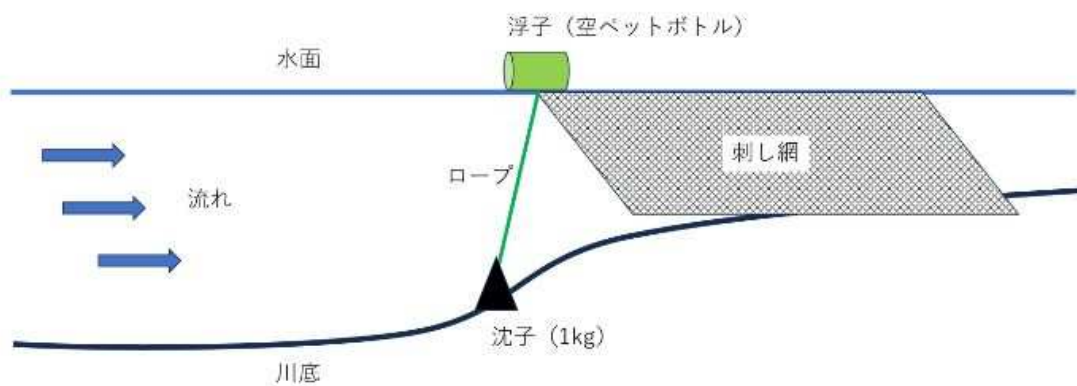


図2 淵での刺し網を張るイメージ（横からのイメージ）

Ⅲ. 習性に合わせた捕獲

3. 見えバスを狙った刺し網

方法

- 岸から見えるコクチバス（見えバス）を狙い、通常は張って待つ刺し網を積極的に動かして捕獲する方法。
- 見えバスが多く、入川が容易な夏場の暑い時期には効果的。
- 捕獲する場所に応じて、いくつかの方法がある。
(次ページの表を参照)



3. 見えバスを狙った刺し網

名称	必要人数	場所	備考
(1)地曳網式	・ 3名 (4名以上推奨)	・ 両岸は人の歩ける深さ(1.5mまで) ・ 最深部でも2m程度の淵やトロ瀬 ・ 川幅は25mぐらいまで	規模が小さい川で、見えるバスがいるのなら、有効な方法
(2)巻き網式 A	・ 2名 (3名以上推奨)	・ 川底が平坦 ・ 人が立って網を巻くことができる浅場がある	
(3)巻き網式 B	・ 2名 (3名以上推奨)	・ 川底に障害物が多く、巻き切ることができない場所 ・ バスが川岸テトラの中に逃げている場合	テトラの中に逃げ込んだバスに有効な方法



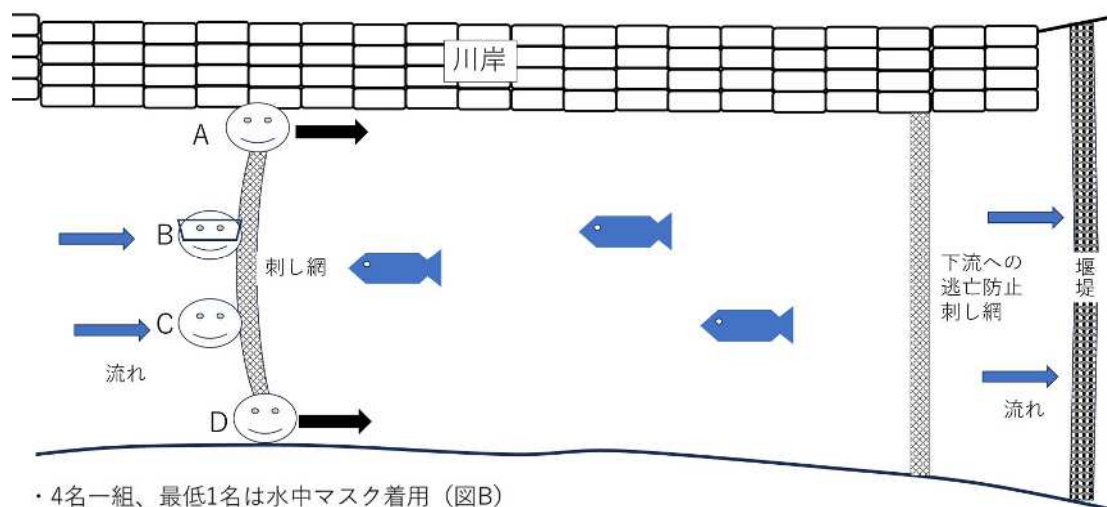
Ⅲ. 習性に合わせた捕獲

(1) 地曳網式

方法

- 実施は最低3名で可能だが、川底への引っ掛かり等を考えると、4名で行う方が効率的。
- 刺し網を横（流れと並行）に張り、両端を2名がゆっくり下流へ曳く。
- 岩や流木に引っ掛かった場合は、残りの1～2名が外す。その際、潜ることがあるため、水中マスクが必要。
- 最後は、片側の岸まで網を巻き取るか、下流にも横網を張って挟むかの方法を取る。

刺網を使った地曳網のイメージ



- 4名一組、最低1名は水中マスク着用 (図B)
- AとDがゆっくり下流方向へ網を曳いていく。
- BとCは川底の石や木に網が引っ掛かったら外す。
- 途中魚が掛かった時はBとCが網から外す (友舟を用意しておく)。

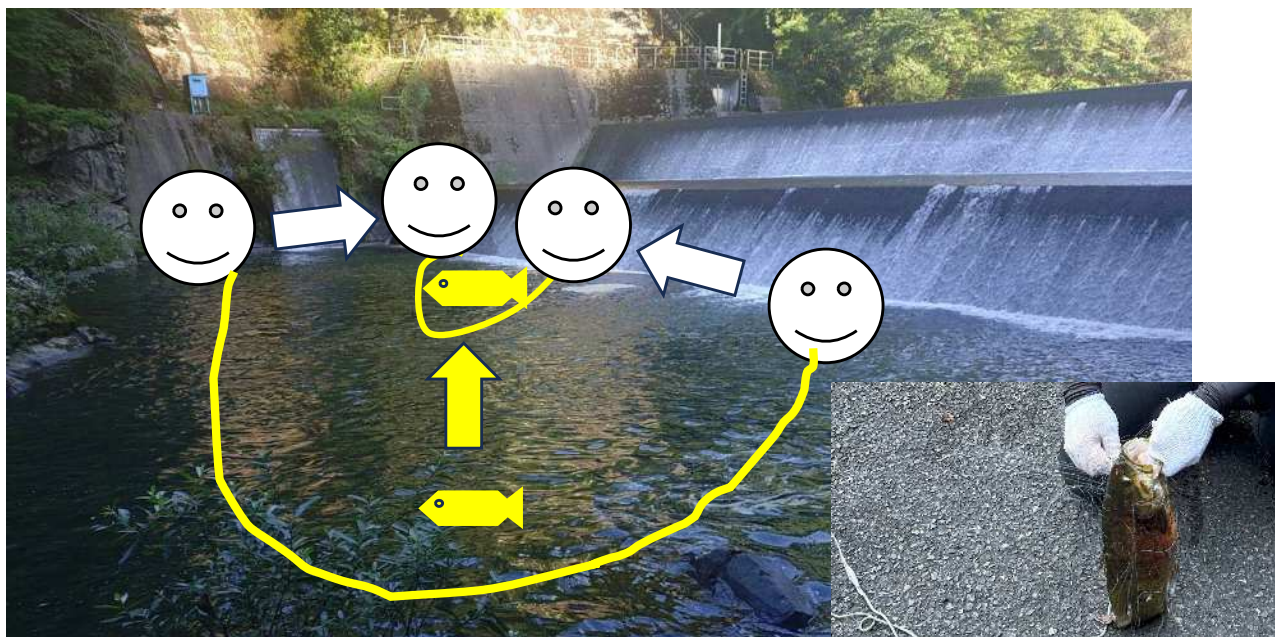


Ⅲ. 習性に合わせた捕獲

(2) 巻き網式 A

方法

- 2名でも可能だが、3名で行う方が効率的。見えバスを囲むように刺し網を張る。
- 囲いを徐々に狭め、バスを追い込み刺し網にかける。



(3) 巻き網式 B

方法

- 2名でも可能だが、3名で行う方が効率的。
- 見えバスを囲むように刺し網を張る。
- 囲いの中で潜水し、バスを刺し網に追い込むか、直接捕獲する。
- 川岸がテトラの場所では特に有効

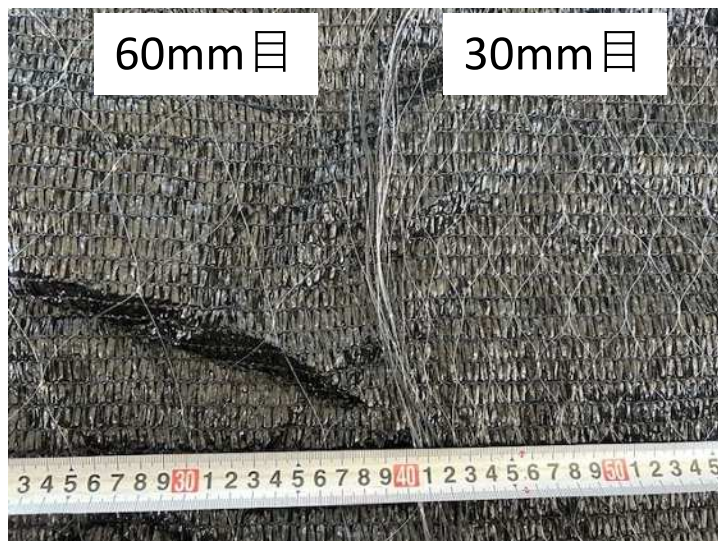


○刺し網の注意事項

- 水産研究所では、目合い30mmと60mmの2種類の刺し網を使用。
 - 【目合い30mm】：サイズを問わず捕獲できるが、40cm以上の大型魚は掛かりが浅く外れやすい。
 - 【目合い60mm】：30cm以上の大型魚に効果的だが、20cm以下の小型魚はすり抜ける。
- コクチバスは川底に沿って移動するため、刺し網は川底に張るように設置する。
- 大型魚は昼間に、小型魚は夜間（朝夕を含む）に捕獲される傾向がある。
- 夜間の刺し網は昼間に比べ、他魚種の混獲が多くなるため注意が必要。
- 夕立による増水で網にゴミが絡み、使用不能になる恐れがあるので、事前に天気予報を確認しておく。

Ⅲ. 習性に合わせた捕獲

○刺し網の注意事項



○目合い60mm（写真左側）

- ・ 25～30cm以上の大型のバスに向く
- ・ 他魚種の混獲が少ない

○目合い30mm（写真右側）

- ・ サイズ問わず捕獲できるが、40cm以上の大型魚は掛かりが悪い
- ・ 他魚種の混獲も多い



混獲された他魚種
（ニゴイ等）



夕立による急な増水
によって、ゴミだらけ
になった刺し網

Ⅲ. 習性に合わせた捕獲

4. 見えバスを狙った餌釣り

- コクチバスは、もともと釣りを楽しむ目的で日本に持ち込まれた経緯がある。警戒心は高いが、餌に対して貪欲で、比較的釣りやすい一面がある。
- 特に、見えバスを狙った餌釣りは仕掛けが単純で、リールを使った釣りの経験があれば誰でもできる。
- 釣り方や餌は、全長30cm前後を境に少し異なる。

(1) 大型魚用(30cm～)

(2) 小型魚用(~30cm)



エビ餌での釣果

Ⅲ. 習性に合わせた捕獲

(1) 大型魚用(30cm～)

- リール竿を使用し、小魚（ウグイ、カワムツ等）やテナガエビを餌にして釣る。道具類は次ページの表1を参照。
- 見えているコクチバスの前に餌を泳がせる、または、送り込む。
- 全長40cmのコクチバスなら、全長20cmまでの魚を餌にできる（次ページの表2）。
- 餌の小魚は、練り餌を使ったウキ釣りで入手可能。小魚が見える場所なら、餌作りの時間含め、小一時間で十分な数が釣れる。
- テナガエビは小魚より嗜好性が高いが、当日の現地調達は難しいため、事前に釣りなどで入手しておく必要がある。

Ⅲ. 習性に合わせた捕獲

(1) 大型魚用(30cm～)

表1 使用する道具

竿	リール	ライン	針
7～8ft(約2.1m)以上のルアーロッド (トラウトロッド、硬めのメバルロッド等)	スピニングリール(2000番から3000番)	・道糸：PE0.6-1号 ・ハリス：フロロカーボン1～2号ぐらい	ワーム用のマス針#1-6等

※基本的にオモリは不必要だが、トロ淵等流れがある場所では、コクチバスが深みにいるため、ガン玉等のオモリを使いコクチバスの目の前に餌を沈める。

表2 餌のサイズと釣れるコクチバスのサイズの関係

釣れるコクチバスの全長	40cm	35cm	30cm
餌の小魚の全長※	～20cm	～17cm	～15cm

※ウグイのような体高の低い魚の場合



竿とリール
(約2.1m・2500番)



餌のウグイ
(背掛け)

餌のテナガエビ
(尾部のちょん掛け)

(2) 小型魚用 (～30cm)

- 道具は餌に合わせて針のサイズが小さくなる程度で、大きな違いはない。詳細は次ページの表1を参照
- 餌はスジエビ（商品名：モエビ）、ミミズ、川虫などの活餌。特にスジエビはコクチバスの嗜好性が高く、最もおすすめ。
- シマミミズは入手が容易だが、コクチバスの嗜好性は低い。
- 見えているコクチバスの前に餌を送り込む。
- 餌を食べたら少し待ってアワせる。
- 全長15cmぐらいまでなら延べ竿（次ページ表1）のミヤク釣りでも釣れるが、大型が掛かると取り込みが難しい。

Ⅲ. 習性に合わせた捕獲

(2) 小型魚用 (～30cm)

表 使用する道具

竿	リール	ライン	針
7ft以上のルアーロッド (トラウトロッド、固めのメバルロッド等)	スピニングリール (2000番から3000番)	・道糸：PE0.6-1号 ・ハリス：フロロカーボン0.8～1.5号ぐらい	ワーム用のマス針#4-6
延べ竿5.3～7.0m	—	・ナイロンかフロロカーボン0.8～1号	・溪流用やチヌ・グレ針

餌の付け方



エビ (尾部を
ちょん掛け)



小さい場合2尾
掛けでもOK



シマミミズ



トビケラ等の川虫も現地調達可能な餌として有用。ただし、コクチバスの嗜好性はミミズと同じ程度で高くない。

Ⅲ. 習性に合わせた捕獲

○餌釣りの注意事項

- 見えているコクチバスが餌に反応しなくなったら、その場で粘らず場所を変える。
- 岸に人の気配を感じると警戒心が高まるため、できるだけ静かに釣る。
- 小魚を餌にした泳がせ釣りでは、食いついてもすぐアワせず、完全に飲み込むまでじっくり待ってからアワせる。
- 見えバスがいない場合、水通しの良い障害物が多い場所で釣る。アタリがなければ場所を移動する。
- ルアー釣りは餌の入手に困らない反面、餌釣りよりも釣果が明らかに落ちる。また、釣り人による釣果の差が極端に大きい。



ルアー釣りは小魚・エビを使った餌釣りに比べ、明らかに釣果が落ちる。



Ⅲ. 習性に合わせた捕獲

○餌の入手について

- 活きエビは、県内の大型釣具店で取り扱っている。ただし、入荷していない場合もあるため、事前に電話で確認することをおすすめする。
- 愛知県の大型釣具店でも活きエビを取り扱っており、小型ウグイを販売している店舗もある。
- 活きエビはおおむね40gで500円（税別）。釣果にもよるが、1名で5～6時間釣るには十分な量。
- ミミズで大型を狙う場合、シマミミズより大型のドバミミズがおすすめ。ただし、おおむね1箱で750円（税別）と高価で、内容量は約8尾と少ない。



釣りの餌（左：スジエビ 右：ウグイ）

IV. その他役立つ情報

1. コクチバス産卵床の見つけ方

【準備品】：偏光グラス、帽子、長靴、ウェーダー

【時期】：5～6月頃（産卵期）

【調査場所】

- ・川の場合は、淵尻の川岸や、テトラポッドの水衝部裏側など、流れが緩やかな場所
- ・ダム湖の場合は、遠浅のワンド

【条件】：水深50～100cm程度で、底質は砂礫底。大きな石などの障害物がある場所は特に注目

【産卵床の特徴】

- ・直径約50cmで、不自然に白くなっている。
- ・中心に直径3～5cm程度の小礫が集まっている。

【確認方法】

- ・その周辺に、体長25cm以上のコクチバスが泳いでいれば、産卵床と判断できる

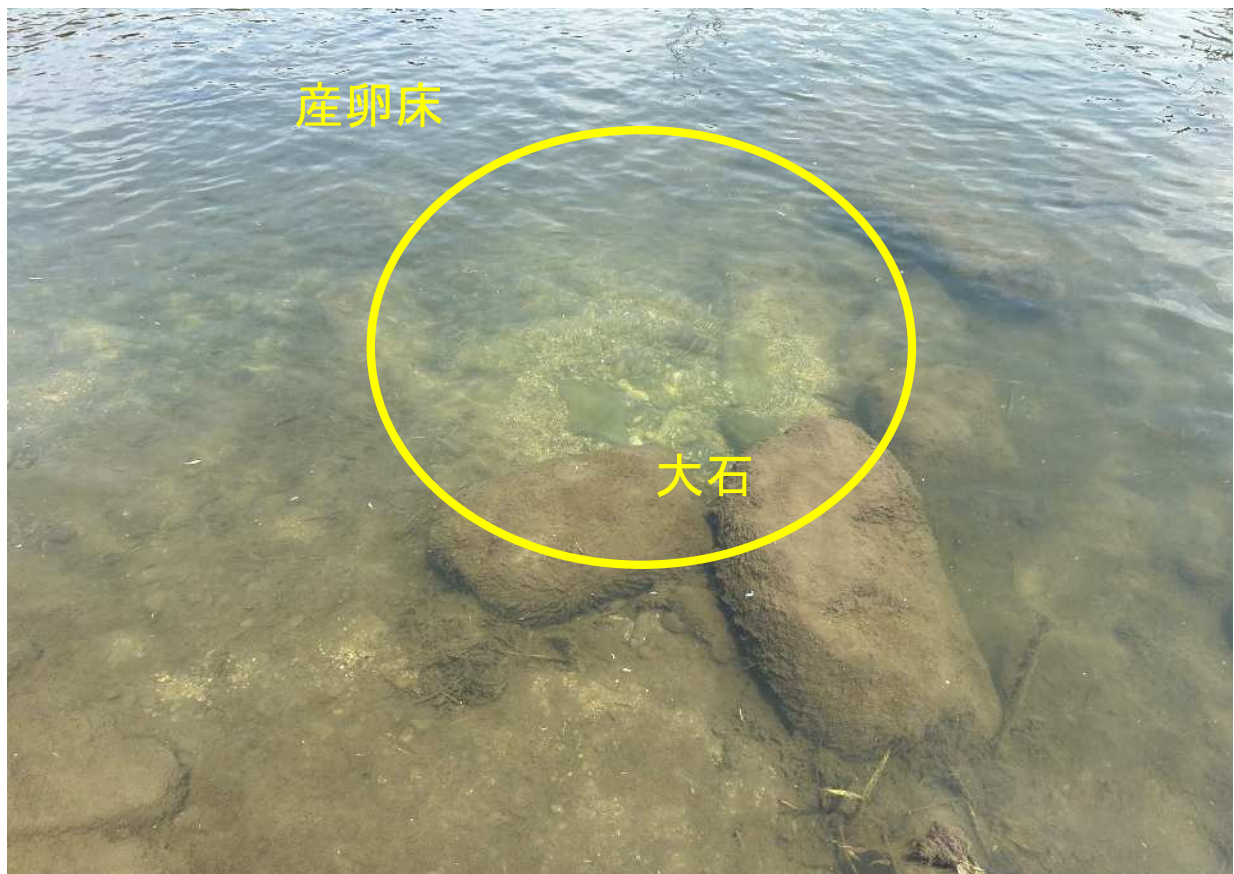
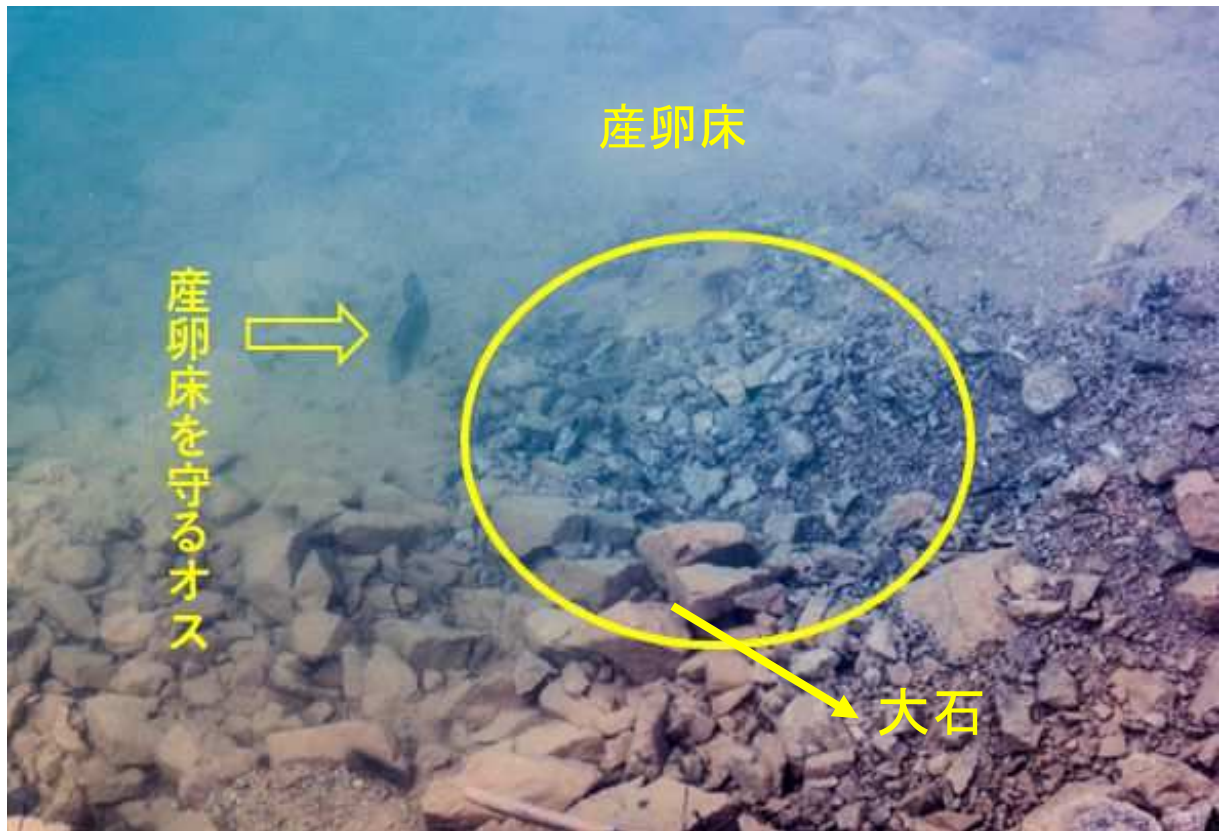


産卵床探索の様子

IV. その他役立つ情報

1. 産卵床の見つけ方

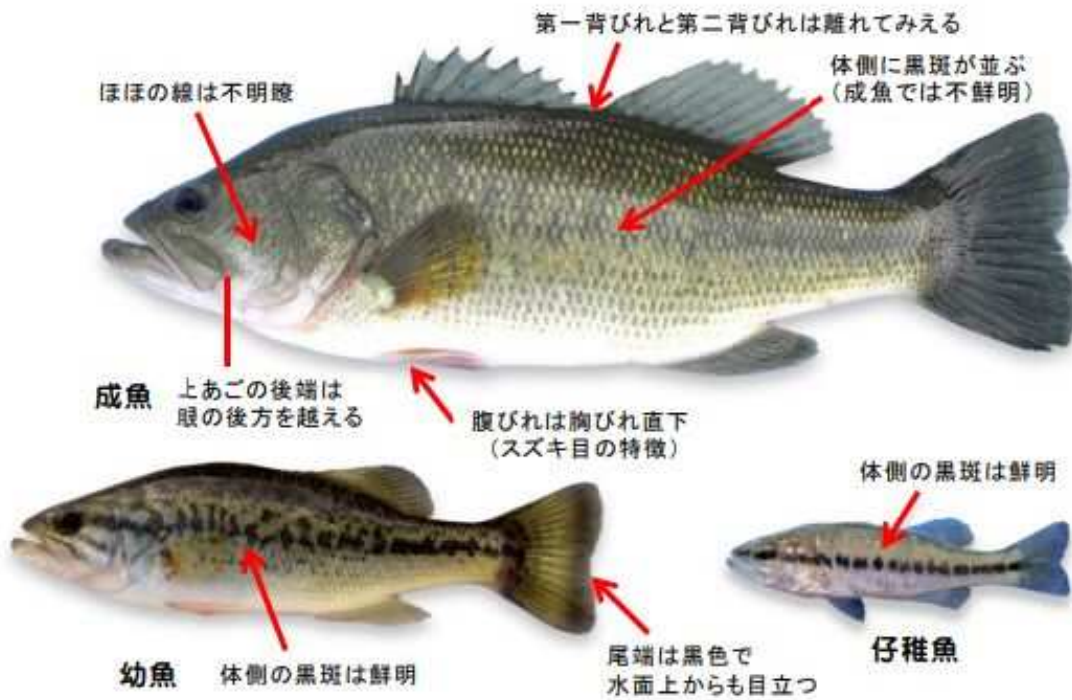
典型的なコクチバスの産卵床（黄色丸内）



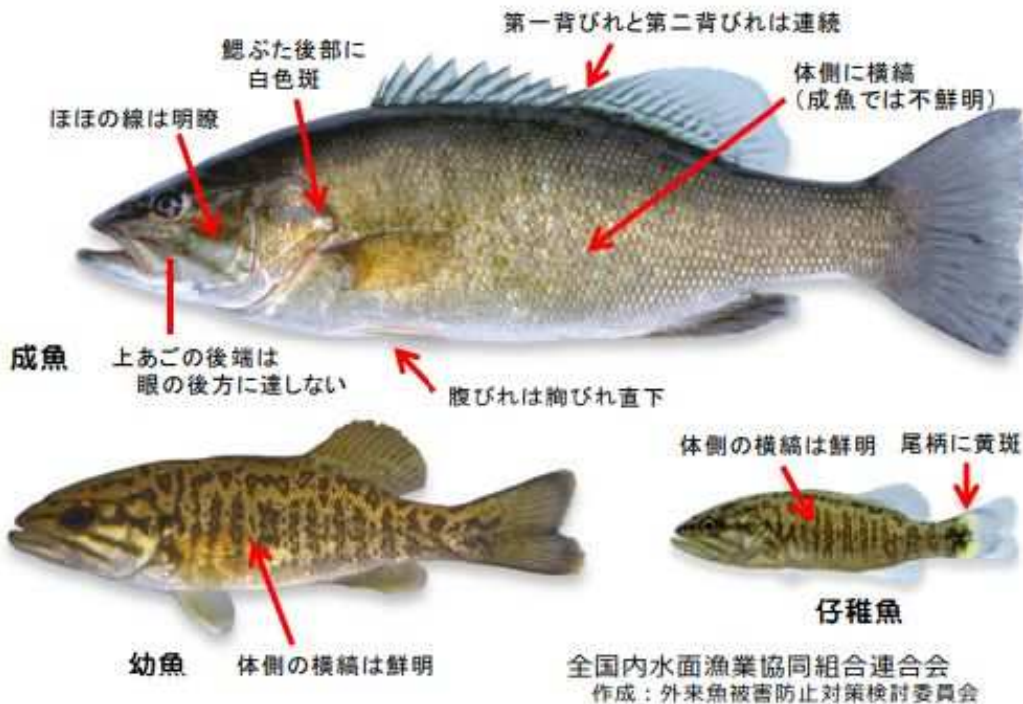
IV. その他役立つ情報

2. オオクチバスとコクチバスの見分け方

オオクチバス *Micropterus salmoides* サンフィッシュ科



コクチバス *Micropterus dolomieu* サンフィッシュ科



全国内水面漁業協同組合連合会作成「外来魚4種の見分け方」より

<https://www.naisuimen.or.jp/jigyuu/bass.html>

※このページには他にも外来魚についてたくさんの情報が載っています。

漁業協同組合員の力で外来魚ゼロへ！

コクチバス捕獲マニュアル



岐阜県水産研究所

本書のPDFは、岐阜県水産研究所ホームページ内の「技術情報」ページに掲載しています。

岐阜県水産研究所 ホームページ
<http://www.fish.rd.pref.gifu.lg.jp/>

「ぎふすいさんけん」で検索
「岐阜水産研」

2026年 1月5日 発行

漁業協同組合員の力で外来魚ゼロへ！
コクチバス捕獲マニュアル

発行 岐阜県水産研究所

〒501-6021 岐阜県各務原市川島笠田町官有地無番地

TEL : 0586-89-6352 FAX : 0586-89-6365